

機械科学専攻	研究分野	応用数理構造	Lab. ID ME02
研究室Webサイト			
研究課題の概要			
<p>この研究分野に所属する教員の専門は数学(実解析、低次元トポロジー、偏微分方程式論)であり、機械科学専攻としては異色の研究室です。修士課程の研究テーマとしては、基礎数理に強いエンジニアになってもらうために、数学の工学分野への応用に取り組んでもらいます。例えば、次のようなテーマを選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結び目理論 ・粘性保存則の数学理論 <p>一方、博士後期課程では教員の専門に近い次のような数学のテーマを選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3, 4次元多様体の判別問題 ・圧縮性粘性流体の数学解析 			
博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等			
<p>2つの研究分野「応用数理解析」「応用数理構造」で一つの研究室(システム基礎数理)を構成しています。博士前期課程では、担当教員との個別セミナーを定期的に行います。また個別セミナーとは別に、週1回の研究室合同ゼミがあり、現在の研究内容や研究の進捗状況を他のメンバーに説明してもらいます。博士後期課程の学生は、主任指導教員との個別セミナーが中心になります。セミナーは遠隔対応可能です。</p>			
研究室生活の紹介等			
<p>研究室にはMathematica とMapleがインストールされたパソコンもあるので、数値計算やシミュレーションに利用できます(教員)。</p> <p>研究室のコアタイムはありませんが、毎日午前中には大学へ来て規則正しい生活を送ると良いと思います。有効に時間を使い、充実した研究生活を送ってください。</p>			
教員からのメッセージ			
<p>最初は、数学の基礎理論を勉強し理解してもらうこととなります。数学の勉強は苦しいこともありますが、自分の頭を使い、手を動かして理解するようにしましょう。曖昧だったことが理解できた時の喜びやこれまでわかっていなかったことが証明される際の高揚感を味わってください。就職先に関しては、多岐にわたります。機械系企業が一番多いのですが、情報系企業へ就職する学生もいます。数学系の大学院への進学も可能です。</p>			
研究室連絡先メールアドレス		門上晃久 <kadokami *at* se.kanazawa-u.ac.jp>	